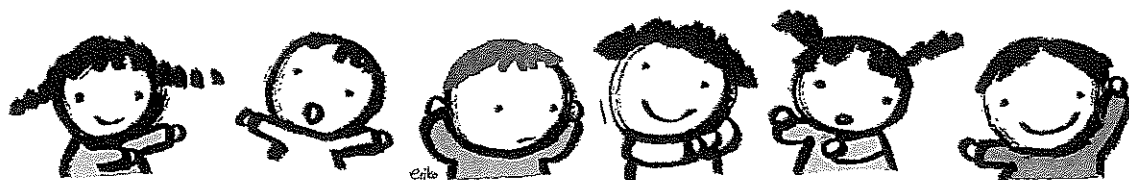


2024年度

こどもニュース

No. 2/

☆ 3月14日
★ 3月19日 発行



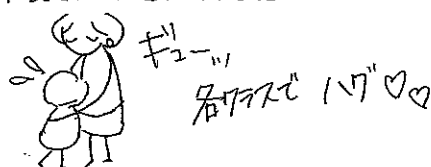
【新しい春にむかって】

今年は久しぶりに寒さが厳しく、冬らしい冬を過ごしました。少し前まで1月、2月には年少さんが寒さのために固まってしまい、手もかじかんで「さむいよー」と泣いてしまうこともありました。最近の気候変動で冬が暖かくなり、氷も張らないし雪も降らなくなっていますが、今年は雪遊びも楽しめ翌日凍るようにとバケツに水を張って楽しみに帰るというような経験もできました。その分、ちょっとでも気温が上がると次々と園庭に出てきて身体を動かし、暑くなるのか、どんどん上着を脱ぐ子ども達。プランターや花壇の花々も大きくなってきました。寒い冬があるからこそ、春の喜びも大きくなりますね。

せっかく四季のある国に生まれたのでそれぞれの季節を存分に楽しんでほしいと願っています。

さて、この時期、どの園でも卒園に向けた準備がなされます。年下のクラスがプレゼントを作ったり一斉に交流の時を持つような行事等がある園もあるでしょう。

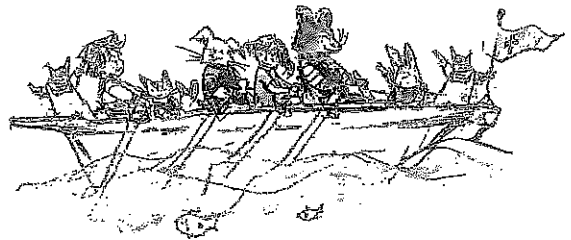
金城学院幼稚園ではそれぞれのクラスに年長さんがいるので卒園はどの子にとっても特別です。今まで以上に誘い合って遊びますし、園のあちこちで「これ〇〇ちゃんにあげるんだ、ひみつだよ」となにより作っている姿もよく見ます。おうちで「もうすぐいなくなっちゃうんだよ、寂しいよ」と話しているとの声も聞きます。異年齢のクラス編成では年長さんは「あまり知らない大きい人」ではなく「自分のクラスのおにいちゃん、おねえちゃん」です。その身近な友だちの卒園は年下の子ども達にとってとてもリアルな現実なのです。毎日一緒に暮らした年長さんとのお別れは、寂しさも愛おしさも子ども達なりに実感があるのでしょうか。「惜しむように遊ぶ」という感じで、この園ならではの「年長さんを送り出す姿」ともいえるのではないのでしょうか。



【年主題「さあ、漕ぎだそう、奏でよう」を振り返って】

私たちが保育の指針としているキリスト教保育連盟の今年度の年主題は「さあ、漕ぎだそう、奏でよう」でした。新型コロナウイルスの影響によって失われた日常が少しずつ戻った2023年度を土台に「さあ、漕ぎだそう、奏でよう」と心躍らせながら始まった2024年度でした。1学期の始業礼拝後の保護者会で「ボートを漕ぐ」お話をしました。ボートを漕ぐと後ろ向きに進むため、進行方向に何があるかはわかりません。でも櫂を必死で動かしボートを漕ぐ私たちの正面にはイエス様がいてくださり、「そちらで大丈夫だよ」と私たちの進むべき道を示してくださっています。「さあ、漕ぎだそう、奏でよう」という主題は「さあ」と友だちに呼びかけ「～しよう」と誘っています。

まさに園の子ども達の姿、誘い合い、関わりあい、育ちあう、ワクワクする毎日を過ごしました。今年度1年間も神様と共に歩めたことに感謝します。
本当にありがとうございました。



【新しい春にむかって】

この一年間も園の保育にご理解ご協力をいただき、お支えくださり本当にありがとうございました。おうちの方々とともに「愛され、育ちあう」を実践できましたことに心から感謝申し上げます。

そして卒園生の皆さん、保護者の皆様 ご卒園おめでとうございます！

新しい世界に飛び出す子ども達、その姿を見守るおうちの方々の上に、これからも神様の豊かなお守りがありますようにお祈り申し上げます。どんな時でも私たちは神様の家族、いつでも園にいらしてくださいね！またお会いできる日を楽しみにしています！

さて、子ども達の「今」や保育の「意図」をお伝えしてきた「こどもニュース」ですが、今年度最後の発行となりました。一年間ご愛読ありがとうございました。

こどもニュースはHPにも掲載されています。卒園する皆様も時々覗いてくださいね！

児玉芽 